

第1回幼・保・小合同研修会

と き 平成30年5月24日(木) 午後3時～午後4時40分

ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室

講演 「障がいのある子と保護者の支援のあり方」

講 師 社会福祉法人新生会 みちのく療育園

副園長 川村 みや子先生

講師の川村先生は、岩手県内初の民間の重症心身障害児施設「みちのく療育園」の副園長として、また専門外来の医師として、日々、障がいのあるお子さんや特別な支援が必要なお子さんに関わっておられます。研修では、発達障がいの特性と対応、またペアレントトレーニングについてお話をして下さいました。研修の一部を紹介します。



保育士・幼稚園教諭・小学校教諭60名が参加

《 講演内容 》

- ◇発達障害という言葉
- ◆特性を理解すれば、関わり方も改善する
 - ・注意欠陥多動性障害
 - ・発達性協調性運動障害
 - ・学習障害
 - ・自閉症スペクトラム
- ◇自己肯定感が下がらないように
- ◇子育てが楽になる方法 ペアトレ

□コミュニケーション・言葉の発達

- ・同じものを見て、同じ感情を共有することが大切。
- ・4歳は、言葉をコミュニケーションだけでなく、行動調整や思考道具として使う。学童は、心の中で自分に語る。思考する。
- ・内言語（「まあ いいか」「こんな日もあるさ」）が使えると楽になる。

■コミュニケーションに支障を来たす原因

- ・感覚過敏・・・音 気温 味 臭い 食感 触覚 圧覚 位置覚 痛覚 視覚
- ・問題の陰に感覚異常あり。

感覚の問題

問題行動

教室がうるさくて我慢できない	→	教室に入れない
教室が暑くて我慢できない	→	立ち歩き
皆の視線が不安	→	教室に入れない・学校に行けない
給食の味・臭い嫌	→	給食を拒否
肩を叩かれたのが激痛	→	相手を叩きのめす
指や手の位置がわからない	→	不器用
好きな感触に異常に惹かれる	→	他人の髪や足を触ってしまう

□子どもへの指示は静かに穏やかに

- ・指示は一つ 具体的に！
- ・指示予告～「あと30分でゲームやめようね」「あと15分でやめようね」「約束の時間だよやめようね」

□支援につなげたい・医療につなげたい

- ・子どもが困っていること、損をしていることを伝える。
- ・本人の困り感が著しいときは、ケース会議を開き、環境調整の手立てを考える。
- ・教育とは、生きることを学ぶこと。問題解決能力を養う。

ペアレント・トレーニングについて

□ペアレントトレーニングは行動療法

好ましい行動・・・褒められる
好ましくない行動・やめたら褒められる
許しがたい行動・・・警告し、やめたら褒められる

□好ましい行動を褒める

- 褒めるタイミング～行動を始めたらずぐに100%できるまで待たずに25%ルールで褒める
- 褒めるときの親の態度～近づいて・視線を合わせて・にこやかに
- 褒めるときの言い方～「行動」を褒める。
- 褒め方バリエーション～笑顔・頭をなでる・肩をトントン・Vサイン・ピースサイン
ありがとう・お母さんうれしい

□好ましい行動だけでなく普通の行動も褒める

- ・昨日部活走っていたね・手伝ってくれる？・元気でいいなあ・掃除をありがとう
- ・「無視」という言葉が含蓄すること。ちょっと待つ。

- がんばっている姿を褒めること・よいところをたくさん言ってあげる。
- 自己肯定感が低くならないようにする。
- 目標とする行動が成功しないときは、スモールステップで行動する。
- 登校前や帰宅後のスケジュール表を作成。選択させる＝納得してやる

《アンケートから》

- ・発達の特徴についての話や、ペアトレを通して子どもの行動に目を向ける、そして褒めるという保育の基本に戻り、これからの仕事に生かしていきたい。
- ・子育ての大変さを受け止めて、褒めながら保護者との信頼関係をきずいていきたい。
- ・日ごろ問題としている課題なので、とても勉強になった。
- ・25%で褒めることは今すぐできることなので、心がけ、始めようと思いました。
- ・行動と気質の違いも分かりやすかった。
- ・ペアトレがとても勉強になった。
- ・医療機関につなぐときの言葉かけが大変勉強になった。
- ・発達障害は生活障害であることも納得できた。
- ・褒めることの大切さ、子育ての時の目線や触れ合うこと、寄り添い方、発達の特徴に応じた対応など、大切なことをたくさん知ることができた。
- ・障がいのある子の気持ちが少し理解できた。
- ・発達障がいの子がクラスの中でも目立つようになり、支援方法で戸惑いが多かったが、具体的に教えていただいたのでとても参考になった。
- ・子どもの行動をよく見ることが大切だと感じた。
- ・保護者支援について、先生（講師）が大切にしていること、伝え方が分かりやすい講義だった。
- ・その子自身を解決しようとするだけでなく、他者と足並みをそろえながら、協力して関わっていくことの大切さを学んだ。
- ・ペアトレがもっと広まっていけばよいと思った。